

第13回 向陽学府小中一体校開校準備委員会 会議概要

1	開催日時	令和6年10月1日(火)
2	開催場所	磐田市役所西庁舎 3階 302～303 会議室
3	出席者(向陽学府小中一体校開校準備委員)	
	学識経験者	元校長 元向笠地区長
	地区代表	向笠地区長 大藤地区長 岩田地区長
	保護者代表	向陽中学校PTA代表者 大藤小学校PTA代表者 向笠小学校PTA代表者 岩田小学校PTA代表者 大藤こども園PTA代表者 向笠幼稚園PTA代表者 岩田こども園保護者代表者
	学校代表	向陽中学校長 大藤小学校長 向笠小学校長 岩田小学校長
4	事務局	学校づくり整備課学府一体校グループ長 ほか1名

会議概要

1 委員長挨拶

皆さん今晚は、今年度第3回目の委員会になるわけですが、挨拶の時間を頂きましたので、ちょっとお話をさせていただきたいと思います。

今日新聞に東海道新幹線が、60周年、60年前の今日開業したようですが、私の60年前は小学校6年生でして、7月に今もまだ使っている向笠小のプール開きがあり、メダリストが模範の泳ぎをしてくれました。あと8月、暑い夏にソフトボールの練習をしていて、そのあと、何かテレビを見せてくれて、掛川西高校が今年、甲子園に出場しましたよね、実は1964年、60年前に掛川西高が出場しまして、熊本の八代東高校と、第1回戦であたって、延長18回0対0で引き分けて、翌日、再試合を6対2で勝って、それでやっと2回戦に行けた。それで負けてしまったけど。掛川西高が今年、60年ぶりに2回戦進出したという、その60年前、私は小学校6年生。またその年の10月10日に東京オリンピックの開会式があって、学校のどこかの部屋で、先生が授業中の時間に、オリンピックの様子をテレビで見させてくれた。その小学校が来年で終わってしまうのですが、その当時のことをよく覚えていて、これでその歴史というか、自分が居た所がなくなっていくという寂しい思いを今日した次第です。

もう1つ、実はつい先日の9月の27日、磐田市立学校の通学の在り方検討委員会とい

うのを傍聴させていただきました。大藤の自治会長さんだと思いますが、2人ほど傍聴されていましたが、そのときに事務局のほうから、いろんな話の中で、特に学府の通学で、向陽学府の現状について、ここで皆さんから出された現状や課題を幾つか、通学の在り方を考える上での参考ということで、例えば、向陽学府では民家が少ない長い一本道があって防犯上の課題がある、長い県道の坂道があって、そこには歩道のないところもあり、子供の負担や交通安全上危険、倒木で通行止めになるような坂道もある、通学の安全の危険を回避する必要があるとか、雨天時に保護者等の送迎がとて多くなっている、通勤時間帯、学校周辺や病院前道路の交通量が多く交通事故が心配であるとか、年々暑くなる夏の暑さ、熱中症危険度の高まりという地球温暖化に伴う暑さのこと、学校の位置が変わったりすることで、今まで近かったが急に距離が遠くなる、学校行事での駐車スペースの確保が必要であるや、向陽中学校の先生からは、通学バスや徒歩・自転車による通学が混在して心配だとか、周辺道路の交通量も多く課題がある、あるいは開校時刻をずらしたらどうかと言っても、教育課程上、登下校の時間が変わってしまう等、一体校ができる上で、日が近付くにつれて、こういう課題もいろいろと山積しているというようなことも先生自ら発言され、委員の方々はそういうことを踏まえて、この前のときにはどうするかというところまではいかなかったが、多分次回ではまとめられるのではないかなと思います。そんな中で1番最後に事務局のほうから、一律に、ああだこうだと、杓子定規に線引きをするということではなくて、必要に応じた特別な配慮が必要ではないかという案が示されました。それについての議論はまだ、この次になりますけど、委員は大方了承し、今後具体的な検討に入るのではないかなと私は傍聴して思った次第です。だから皆さん方がいろいろと前回、前々回、通学路のことがいっぱい意見出ましたけど、そのことは、事務局から、市としての通学の在り方を考える検討会のほうに持ち込まれているということをご報告させていただき、挨拶にかえさせていただきたいと思います。

2 議事

(委員長)

それでは議事に入りたいと思います。校章についての関係、皆さん方の通学路とか、駐車場とかいろいろ関心度の高いところからはちょっと、こういう別のこともやっぱり検討しないといけないこともありますので、まず校章について、事務局から説明をしていただきたいと思います。お願いします。

(事務局)

本日の議事ですけれども、二つございます。一つが小中一体校の校章決定について、二つ目が学校と地域のつながり創出についてというところです。ちょっとその前に、前回の開校準備委員会でお伝えした敷地の拡張についての進捗状況を、通学路にも関わってくることでお伝えをしたいと思います。前回の開校準備委員会において委員の皆様から通学方法や通学の安全面について、いろいろご意見を頂きました。今ありましたようにそういったご意見を市の通学の在り方検討委員会にも報告をさせていただいて、向陽学府の通学をどう考えていくのかというところの検討に入っております。事務局として

も一体校の建設に伴い、小学校区が広がることとか、通学する児童生徒の人数が3倍以上になること、通学距離が今までよりも増えることなど、開校に向けての課題が顕在化する中で、児童生徒の安全を最優先に考えるべきと捉えて、検討を重ねています。先日の市議会においてバスロータリーや駐車場を確保するための敷地の拡張についての調査費用を補正予算として要求し、現在その審議をしております。今月15日に議決されましたら、今後の拡張に向けて進めていく予定です。今後拡張を想定していく中で北門付近に想定していた、2台から3台のバスロータリーを学校敷地内に引込み、北側の道路や西側の道路の危険性を回避したいと考えています。その際ですけれども、向陽中学校、北門付近の敷地内の文化財調査を合わせて行おうと考えています。文化財の調査ですけれども、非常に時間と手間がかかるため、向陽中の敷地内についてもなかなか、長年の間手をつけられない問題でありましたけれども、今回の敷地の拡張機会に調査をかけ、万が一文化財が発掘されたときには全て掘り起こし保存していく予定です。その調査と発掘が終了すれば、北門付近も、利便性のよい形での開発が可能になります。ただし調査期間が約11か月、令和7年の4月頃からを予定しております。そういった期間がかかっているところも含めて、それらのおおよそが決定されましたら、改めて委員の皆様にお伝えして、協議していただくこともあるかと思っておりますので、またどうぞよろしくお願いいたします。以上報告になります。

本日ですけれども、向陽学府小中一体校の校章について初めに協議を頂きたいと思っております。お手元のマル秘と書かれました向陽学府小中一体校校章候補作品アンケート結果についてご覧ください。向陽中学校の生徒が6月に作成してもらったものを改めて清書していただいて、大藤小学校、向笠小学校、岩田小学校、向陽中学校の児童生徒にアンケートを実施したその結果が、そちらの表になっております。赤くなっているのは、票が多く集まったものというふうに捉えていただければと思います。デザインだけでなく、願いや意味も含めて、校章としてふさわしいと感じる作品を3点選んでもらった結果が資料の1枚目になります。決定については、児童生徒の意見をもとに、本日委員の皆様で決定をお願いしたいと思います。半年前の3月に行われました第10回開校準備委員会において、校章は向陽中の生徒の発案をもとに決定していくことが、委員の皆様の総意とされております。ただし、決定については、一つの作品ということになることもあれば、複数の作品同士を組合せてそれぞれのよさを合わせた校章にする等、そういった方向もよいのではないかとといったそういった協議もされておりました。今日決定されました校章については、業者にデジタルデザイン化を依頼して、今後、校旗などの作成を検討していく予定でおります。今お手元にあるアンケート結果をもとに、本日校章の決定をこのあと協議を頂ければと思います。それでは、よろしくお願いいたします。

(委員長)

校章の決定の仕方について事務局から提案があったわけなんですけれども、アンケートの結果をもとに、決定をしたいなと思うわけなんですけど、どうでしょうか。お近くの方で話し合いをしていただいて、その様子を発表してもらおうという感じでどうでしょう

か。

(事務局)

それではちょっと提案させていただきます。資料次第裏面の名簿の備考欄に、AからDで近くの方同士お話ができる形でちょっとグループを決めさせていただきました。なかなか全体で、これをというお話は少し難しいかと思しますので、それぞれ、4人ないし3人のグループの中でお話をして頂いて、これという決定ではなくて、これとこれっていう話にもなるかもしれませんし、いやこれがいいだろうというものもあるかもしれません。少しお時間をとっていただいて、グループ毎に協議をしていただいた後、その考えをもとに皆さんで決定の方向に向けていただければと思います。もし必要であれば椅子等を動かしていただいても構いませんので、よろしくお願いいたします。

～ グループごとに協議 ～

(委員長)

どんな意見が出されたのか、それぞれのグループごとにちょっとお伺いしたいなと思います。事務局で前のホワイトボードに出された意見をメモしてもらいたいと思います。

Aグループからお願いします。

(委員)

Aグループの意見としては、2番が票数も多く、シンプルでまとまっていると思うんですけど、2番、そのままじゃなくて、ほかの作品とかにも、いろいろといいパーツがあったりすると思いますので、2番を基本として、他のデザインから、少しずつ、皆さんの意見を聞きながら、いいパーツをもし組み合わせれば、学校のシンボルとなるような校章が想像できるんじゃないかなというふうな意見となりました。できれば2番、真ん中の富士山と「K」っていうのは、少しアレンジすればもっと良くなるかなと思います。

(委員)

Bグループは、これというのは決められなかったんですけど、上位1、2、3を多分ここからデザイナーの人が、清書というか最終段階のデザインしていただくと、多分イメージがもう少し変わって来ると思う。正直、これ1個だよって決めて、デザイナーさんに頼むんじゃなくて、上位3つぐらいを頼んだ後のデザインで決めると、よりイメージが湧いていいのかなという意見が出ました。

(委員)

Cグループは、まず、大藤地区というか向陽はコスモスで1、2、5、8番、全てコスモスの花びらが入っていて、下の付記した文々を読むと、1年生から中学3年まで9年だから、花びらが9枚はいいなということで、現状の校章の「向陽」が1番の校章で使っているので、それを基本に、コスモスのアレンジを入れて、真ん中の小中校の文字を少し考えれば、いいのかなあと、現状カラーで出ているので、色具合ですごく見栄えのいいのと悪いのっていう感じがしないでもないもので、これが単色になったら、色が見えなくなっ

やうので、落ちついた感じで、1番を基本として、要は今の向陽中学の校章の下から広がる「向陽」を生かしつつ、それにコスモスの9枚の花びらを1から9学年生して、真ん中の文字を先ほど2番の「K」とか、そういったものの文字がどうかってということもあったので、そこら辺を少しこう、専門家にアレンジしてもらえれば、白黒で作られたとしても、すっきりした形のものができるんじゃないかなという意見で1番を基本で2番と5番と8番をセットした形でいければ、デザインしてもらえばいいのかなという形です。

(委員)

Dグループでは、2番を基本としてという同じ意見が出ました。2番を基本としてそこに、2つ出たんですが、1番の今の中学の「向陽」という下から上ってくるデザイン。これを2番の上にかぶせていくような形。ただ真ん中の「K」はやはり漢字で「向陽」とくるので、漢字が「小中」というのが入るとどうかなと思いますが、「小中校」と3文字のバランスよりも、「小中」だけのバランス、2文字のバランスの方がいいんじゃないかっていうような意見がここでは出ていますので、2番に1番を重ねていくんですが、私も真ん中の文字としては「小中」だけの方がと思います。もう1つ出たのが、2番に6番の「向陽」という字を重ねていく。漢字の「向陽」という二つが今出ました。6番を重ねる場合は1番の下から上がってくる「向陽」というのは、なくなるということになります。そのような意見が出ていました。

(委員長)

コスモスの花びら9枚ってね、小中一体校の9か年。実際のコスモスは9枚じゃないですよ。5枚くらいですか。

(委員)

さっき調べたら8枚です。結構多いんですよ。

(委員)

花言葉とか気にしなくていいですか。花言葉は色にもよるらしいんですが、調和、謙虚、乙女の純真ということらしいです。

(委員長)

中学校のコスモスは、私が記憶にある限りにおいては、きれい美しい、まずはきれいな花。しなやかだけど強い。あんな細いのに、結構強いんです芯が。もう1個は宇宙、コスモスです。多分そんなじゃなかったかな。

(委員)

そうですね、後、「愛」です。

(委員長)

何か1個コスモスっていう、これをデザインにすると、学校経営上、小中一貫それはやはり何かこうすごく何ていうのかな、どこかに基本に据える必要があるんですよ。そういう教育活動に出てくる。

(委員)

そういう活動が教育活動なんかが、表立ってというわけじゃないですけど、今までもや

っぱり、その小中の我々のこの子供たちを育てる考え方の計画には、コスモスプランという名前をつけたりはしています。

(委員長)

地区長さんのグループだったか、今の向陽中の「向陽」を、2番の下の方の葉の所を付け替える。今の向陽中のデザインを残すというか残しながらという感じですね。いずれもこれがいいというのではない。これにそれとあれなんかをセットして、ちょっとデザインを、専門家に考えてもらうという意見。コスモスの話が出ましたけど、そこの大本はですね、生徒会活動で、学校も、周辺の道路、中学校西側の南北の道路、そこにコスモスの種をまいて、きれいに道路が、コスモス道路になって、自分の娘のときも奉仕作業で道路をきれいにしていた。それがちょっと道路管理上とか法律上の課題から、そういう活動ができにくくなってしまった。管理者じゃないものが、勝手に組織的にしかも学校が、道路に植栽をするっていうのは何か法律上好ましくない。そういう堅苦しい行政上の問題で、実は立ち消えになってしまった。でもそのコスモスという、そういう子供たちが考える、そういう活動の心というか、思いというものは、そこで終わらず、学校の中に、今では、学校経営をする上での一つの合い言葉になったりとか、これが難しい言葉を並べて云々じゃなくて、みんなに分かりやすく、それが平成一桁の頃からやっています。そういう歴史がコスモスという言葉の中にあります。一応参考に。

(委員)

実際にこの後、これをデザイン化してもらうときに、1パターンしか作ってもらえないんですか。それとも、これを基に2、3個案を出してくれるのか。もうこれっていう1個しか出ないのか。どうですか。

(事務局)

何パターンも作ってもらうというのは難しい。ある程度は絞る必要があります。

(委員)

では、これを基に、これとこれを入れてくれということで作ってもらうことは可能ですか。

(事務局)

それは可能だと思います。

(委員長)

あと、書いてくれた子供たちの思いも、ここで勝手に変えちゃったんじゃないよね。せつかく基をつくってくれた子供たちの思いを。

(委員)

そのまま使われないこともあると思って作ってると思うからいいんじゃないですか。

(委員)

それでは、この「向陽」の文字をどうするか。ここで決めないといけないですよ。ある程度しぼる必要があるから。2番を基本にということ。

(委員)

2番を基にじゃなくて、コスモスを真ん中に置くということ。コスモスを使うというこ

とで、まずは皆さんの同意を得て、そこからいろいろパーツを補っていく。

(委員長)

コスモスは9枚の花びらということで、それはいいですかね。

(委員)

そうですね。あとは真ん中と周りをどうするかですね。

(委員長)

それでは、真ん中は、漢字ということでしたよね。

(委員)

字は別として、今の「向陽」を残せれば残してあげたらいいよね。

(委員)

2番に対して、6番の文字を持ってくるパターン1と、1番と2番を重ねるってパターン2の二つかなって思うんですけど。

(委員)

1番に2番を重ねるパターンは、真ん中の字を「小中」にするのか、下に「向陽」って残るので、真ん中は「小中」でなくても、何もなくても、「学府」としてもいい。

(委員長)

ちょっと確認、コスモスが中心にあって、その真ん中に「向陽」という文字をいれて、下にお茶の葉っぱがあるパターン。それと、下から延びる「向陽」の中にコスモスを書いて、コスモスの中心に「小中」という字を入れるか、別の字を入れるかというパターン。

(委員)

校章はカラーで作るんですか。

(事務局)

カラーでも可能です。最近の新しく作っている校章はカラーがやっぱり増えています。

(委員)

グラデーションまではできないでしょ。

(事務局)

それをどこにやるかだと思うんですけど、例えば紙に載せる校章ならできると思いますが、例えば校旗、あれは刺繍になりますので、ちょっと難しいかと思います。

(委員)

今までの伝統って考えると、1番の「向陽」という字を使ってもいいのかなっていう気もする。

(委員)

何か真ん中が2文字だと、くどいので、例えば「学府」の「学」だけにするとか。

(委員)

今も「中学」って入っている。だからその「中」をとったら「学」になる。字は難しい漢字を使っている。

(委員)

簡単な「学」という漢字だと安っぽく見える。難しい漢字の方が重みを感じられる。

(委員長)

これ応募してくれた方で、主に採用された子供に何かを伝えるとかそういうことは何かするんですか。

(事務局)

応募頂いた生徒の皆さんにはちょっとした賞品を清書していただいた時にお渡しさせていただきました。なので、そこについては、今回採用された子たちにそうしていくかは、皆さん頂いたものでエッセンス、思いを一つにしたっていうところで無しというふうに考えています。

(委員長)

これだっていうのなら別だが、そうじゃないからね。

(委員)

これカラーの方がいいと思いますよ。ただ校旗などは金刺繍のほうがいいと思うので、カラーと単色の2パターンにしたらどうかと思います。

(委員)

この二つのデザインに最終的に決まったので、これで業者にきれいに清書してもらって、それを見て決めていくことでどうですか。

(委員長)

清書してもらった二つの状態を見て、ちょっと皆さんの意見を聞いてみたい。もし、どっちかということ早くはつきりさせて欲しいならメールで投票する。スケジュール的にどうなのか。2か月先でもいいなら、それでいいと思いますがどうでしょうか。

(事務局)

それでは、この2パターンのもとの、それぞれのカラーと単色でみたいなところを、1度デザイン化するようにして、次回のときにそれを皆様にお示ししようかと思っておりますので、ここである程度決めていただければ、何となく行けるかと思っております。

(委員)

ごめんなさい、僕らの所で出た話ですけど、右のほうの「向陽」という字が真ん中に入るパターンでは、もうちょっと字が大きいイメージです。真ん中に入るっていうよりは、この6番見てみると、字が大きいじゃないですか。

(委員)

「向陽」の後ろにコスモスが入るといような感じですか。

(委員)

そう、僕らのイメージはそんな感じでした。左の下から上ってくる「向陽」のデザインも「向陽」という字としては大きいじゃないですか、真ん中に入る「學」という字は小さいけれども、右の場合でも「向陽」という文字自体はもう少し大きいというイメージです。

(事務局)

文字の大きさとかであれば、もう少し大きくとかの修正はできると思います。

(委員長)

それでは、あえてこれ以上絞らなくていいですか。それでは事務局の方で、2点のデザイン化の方を頼んでみて、出来たものを見て次回はっきりさせる。もし、その間に何かあれば、連絡を入れていただく。そういうことでよろしいですね。それでは校章については、このぐらいにさせていただきます。

それでは次に、学校と地域のつながり創出について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

校章について協議のほう、ありがとうございました。

議事の二つ目に入りますけれども、議事の2番については、今日の中でということでもありませんし、何かこう決定していくということではないのですけれども、少し今日から、学校と地域のつながりというところの少し協議を進めていきたいと思っております。まずもって学校と地域のつながりという言葉ですけれども、向陽学府小中一体校ですが、コンセプトが「日本一優しさが育つ学校」とあります。この意味としては、地域の人や物事などのそういったもののつながりや関わりを通して、子供たちに優しさを育てていくことができる。9年間の小中一貫校を目指すことが基本構想でうたわれています。そのための機能も、学校の中にあわせ持った設計となっています。向陽学府は大藤地区、向笠地区、岩田地区ともに、非常に地域に支えられた学校づくりが進められています。令和8年度の開校時に、各地域とのつながりを継続した学校となるよう、今日から何回か、学校と地域のつながりについて議事としていきたいというふうに考えています。まずもって、どういったつながりができるのかとか、そもそも一体、今は地域と学校がどういったつながりを持っているのかというところからの始まりかと思っています。そういったことを共有していきながら、もう1年半を切りました。1年半後に開校していく、目指す学校像。そして、恐らく令和8年からも、学校は学校づくりを進めていくことになるかと思っておりますけれども、目指す学校像をそれぞれのお立場から考える場となればというふうに思っております。

今日はそれほど時間もございませんので、協議というところまではいかないかもしれませんが、学校と地域のつながりというところから皆様が感じられるところ、そういったところを少しお話して頂いて、次回第14回につなげていきたいと思っております。それでは進行のほうよろしく願いいたします。

(委員長)

学校といいますとPTA、保護者、当然関わりがありますし、子供会もあるだろうし、また地域づくり協議会なんかでは、健全育成とか防犯とか交通安全とか、あるいは地域イベント等へのボランティアとか、いろんな形で程度はあるけれども、学校と地域とが関わるといふか、つながるといふ場面が幾つか考えられると思います。小学校も学区が変わったりして、その中で、学校が地域を支援する、逆に学校が地域にお願いをする、また地域が学校に対して、こういうふうにしてほしいと言ったり、いろいろな関わりが想定されるんですが、その中で、皆さんが思い描くつながり、課題、こうあるといいなあとかね。ど

んなことでもいいんですが、特に地区長さんなんかは、地区の代表でもありますので、いろんなお考えを出し合う中で、つながりの在り方っていうのをこれから考えていきたいと思います。今日はまず、最初の会合ですので、いろんな視点からでも、どんな意見でも結構です。出していただきたいなと思います。

(委員)

今、どのような地域とのつながりをやっているかということを知りたいんですけど。あまりぱっと思い浮かばない。今、何やっているんでしたっけという程度。農業とかを農地借りて何かやってる。そもそもよく分かってない。旗振り当番とかやったださっている、そういうのはもちろん存じ上げているんですけど、何を実際にやっているんですか。

(委員長)

現状、どういった事が行われているかということですね。そのあたりどうですか。

(委員)

多岐にわたっているいろんな団体と一緒に、学校にお邪魔したり、来てもらったりで、来月、小学校1年生とおじいちゃん、おばあちゃんが一緒に、昔はこんなことして遊んだよということで、紙飛行機作ったり、お手玉とかっていう、社協が1年生、2年生、3年生、小学生を対象にやるのが年5～6回ある。一緒に遊んだり作ったり、12月になると門松作ったりとか、それは社協の関係が6回以上。それから、地域づくりとして水辺の学校といって、アユのつかみ取り、イベントですけどね、水辺の生物を見てというのは一雲斎川の根本でやっている。その他、ふるさとの会でジャガイモ作ったりチューリップ植えたりとか、植栽を小学校の所でお願いして、学校の前の畑借りてやったりとか、漁協の人達にお願いして、マスの放流を天竜川でやったりとかね。いろんなこと、藍染めをやったりとかしているんですけど、それは今後も続けていきたいと思っている。今、岩田地区でちょっと問題にするのは、キャパシティの問題。子供たちを、例えばアユのつかみ取りに120～130人集めてやるのはいいんですけど、向陽学府になると、一気に3倍になっちゃうんですね。岩田地区の子だけというわけにはいかなくなると思う。その辺をちょっと皆さんと一緒に考えてもらって、若干予算と人を増やせばできるんでしょうけど、3倍は無理かなんか思ったり、今、そういうつながりを考えたときに、今後やっていくのに、向こうへ行ったり来たりというのは、物理的な移動の時間と空間的な問題だけなので、それは解決できるんですけど、キャパシティが今、今後どういうふうにそれ解消しようかなと考えている。やめるというわけにはいかないし、同じ1年1組から3組ある中、岩田地区の子だけ来てねっていうわけにはいかないものですから、それだけは今ちょっと考えていて、そういうのが、何かうまい方法がないかな。それはどの地区もみんな一緒だと思うんです。何れにせよ最低月に1回はいろんな行事を学校の先生にお願いしてやらせていただいています。

(委員)

すごいですね。月に1回もやってるんですね。絶対それは続けたほうが良いと思います。私の考える教育って主体性を育むことなんです。自主性ではなく主体性です。それを考

えたときに、それを子供たちに強制するんじゃなくて、いろんなことを選ばせればいいと思うんですよ。今日藍染めやりたい、今日アユやりたいみたいに。こうやっていくと子供たちの選ぶものが全然違ってくると思うんですよ。それがまたその子供たちの個性になっていくと思っている。自由に選べるっていうことをもっと増やすのに、すごくいい取組かなって思っていて、強制的にあなたはことかかっていうのではなくて、一つの何ていうんですかね、月に1回やるんだったら、今回私ここの行きたいとかっていう楽しみにもなるのかな。そしたら人数もばらけるので、アユやったりジャガイモやったり、そういう感じでやっていったら面白いかなって思いました。

(委員)

課外活動では、今、希望の場所に行くとかっていう、子供たちでリーダー研修をやってますよね。今度、文化祭、敬老会でボランティアをお願いするんですけど、岩田地区のほうだけじゃなくてみんなに声をかけることになるんだけど、多いに越したことはないんだけど、やっぱり目が届かなくなることもある。

(委員)

何かそこも話合いとかができる場になるのかって思うんです。20人しかいないところ60人応募してきたら、どうやって20人を決めるのっていう話もできる。それもまた教育の場になるのかなって思う。

(委員)

応募してきたときに、単なるボランティアみたいな、人工で考えると楽なんだけど、そうじゃないので、せっかく来てくれたので、あなた達は来てもらってこういうことをするんだけど、お年寄りも一緒に含めて話合いしてやってねって、こうちょっと勉強っぽくするんだけどね。そういうこともあるので、やっぱり、いきなりキャパシティーがどんどん大きくなると難しい。先着何名って言っちゃえば別だけど。

(委員)

今のお話なんですけど、本当地域としては、うちの地区も同じ問題抱えてますけど、向陽中の生徒も同じ状態になるんですけど、向笠、大藤、岩田の子が応募してくれる。その中で学校の間などで話し合って、私ここに行くよとかってやれたり、私たちが昔は学校に入って、今度こういうことやります。お祭りでこういうお店を手伝ってくれる子、イベント企画っていうのをやったり、みんなで話し合ってやるっていう機会を設けたんですけど、今コロナ後はなかなかそこができなくて地域のほうで募集して地域のほうで集めて、交流センターに来てもらって話をしなきゃいけないので、なかなかそのキャパシティーの調整という部分が学校でできればいいんですけど、地域のほうでやるのはなかなか難しい。もうボランティアの募集に関して、今は完全地域ベースになっている。この前もちょっと地区長会でお話したんですけど、このままいくとうまくいかないの、向笠のほうだけじゃなくて受けたいけど、さっき言ったみたいに、この時期こういうのがあるけど、ばらばらにみんなが行きたいとこ選んで行けるっていうようなことが調整ができるところがあればいいんですけど、今のままだと、ちょっと難しいかなって思ってるところがあ

ります。

それからもう1点いいですか。図書ボランティアの話なんかで、昔は3小学校全部、中学も含めて読み聞かせ、朗読あるんですけど、以前1回、10年ぐらい前、多分学校の教頭先生からお話があって、3地区の図書ボランティアが交流したらどうかとか、小学校卒業した後に、中学でもその人がボランティアで読み聞かせに入ることによって子供たちを継続して見守っていけるっていう提案があって、すごくいいなっていうことで、そのときは各地区の小学校の読み聞かせボランティアが中学校に入ってやってたんですけど、やっぱりこれもコロナで、もうすっかりその交流もなくなってしまったりしていて、そういった部分はボランティアもこの3校が一つになっていくので、それぞれの小学校で入ってる地域ボランティアも一体校になるときにあって、ちょっと顔を合わせて協力していく空気というか、何かしていかないと、せっかく今までつながってきたものがなくなっちゃうかなっていう部分は、私のほうはちょっと心配しているんですけど、なかなかきっかけもなくというところです。

(委員長)

コロナ禍で、今までやってきたものが、例えばお寺の総代をやっているんですが、こちらのイベントなんかでもコロナで、集まるのがほとんどできなくなった。それで復活したら、参加者が完全に半分くらいになっちゃった。結局やらなくても済んだことが当たり前になっちゃると、これを元に戻すエネルギーってすごく必要。果たしてエネルギー使っても、元へ戻るかどうか心配のような感じがしました。これはお寺の行事ですが、学校なんかも似たところがある。それではいけないので、やっぱり必要な部分はお互いに、いずれにしても新しい学校、新しいPTA組織ができたり、地域づくり協議会でも、交通安全にしても防犯にしても健全育成にしても、ほぼ似たような事があると思う。一つの学校になりますので、何かその辺の横の連携は必要かと思います。色々な問題が噴出して、私自身まとまらなくなってしまっている。

(委員)

防災訓練もね、子供たちと一緒にやるんですけど、こうなったらどのぐらい集まるのかなとか疑問はある。

(委員)

同じ時期に開催する、どこでも開催するものについては地区で出てくださいという案内は出来るんですけど、それぞれ別に色んな行事をやるときに、向陽小学校の学年、同じクラスというか同じ学年になった子たちが、どのように3地区に関わっていくのかっていうのが、やっぱり今から少しずつ考えていかなくてはいけない。向陽の子は向笠の子、向笠の子は向陽の子、岩田も大藤も向陽の子っていうことで受入れを考えたら、先ほどのようなキャパの話が出てきますし、岩田地区に住んでる1年生が向笠まで友達の家歩いてこれるかというそれは絶対無理なので、そういったところの安全の部分を考えながら、一緒にやれるところを考えなきゃいけないと思ってますが、なかなかそういう場がない。

(委員)

普通の学校、大きいマンモス校と違ってあるじゃないですか。それをちょっとイメージするときに、何か地区と違って、正直関係ないじゃないですか。でもこれが向陽ではこんなに叫ばれてるのって、なぜですか。広いからですか。

(委員)

3小学校がそれぞれすごく地域とつながっていった歴史があって、こうなるからです。

(委員)

最初からマンモス校ではなくて、小さい学校が集まるからこういうことが起きる。それをマンモス校みたいな感じで捉えるのは無理があるっていうことですね、一つとして。

(委員)

マンモス校って、基本的に小さい地域にいっぱい子供がいる小学校。ここはそうじゃないから。

(委員)

協議会を見ても、見付や中泉と違って、ここは3つあるので。

(委員)

すみません何も知らなくて。それを一つにしようとしているんですね。協議会ってそもそもどういったものですか。

(委員)

協議会は1つにならない。協議会は自治会の集まり。自治会長会が三つあるから、笠地区の11自治会で一つ、大藤地区が14自治会で1つ、岩田地区が8自治会で1つで、それぞれ地区単体で小学校を中心はずっと過去動いてきたので、今、岩田地区長さんが頭を抱えてるのは、1校になるからという話からどうかっていう、全てのことがね。

(委員)

そうなんですけど、基本的には子供たちとは関係ないというか…。

(委員)

子供は関係ないけれども、子供たちのためにやらなきゃいけない。

(委員)

ところが、今までを変えなきゃいけないので、考えて工夫していかなくてはいけない。

(委員)

それをうまくやっついていかなくてはいけない。

(委員)

そうなんですけど、結局何を話したいのか分からない。これって難しいよね。じゃあどうするってところを、もうある程度そこで答えが出てって、できない難しいってところ、そういう課題があるってことを私は今知ったので、解決の糸口をみつけれるのか…。

(委員)

言ってることは分かります。それを、小学校のPTAさんとかにっていう部分じゃなくて、ベースは私たちがやらなきゃいけないんで、そういう、将来的なニーズとか問題があ

りますよっていうことは理解しといてもらわなきゃいけないですよっていうところでいいですよ。だからそれに対してPTAさん何しててくださいってことではなくて、ある程度ベースができて、こうしたいけどって言ったときに、PTAさんにも入ってもらって、こういうことをやる時にはPTAさんもお協力してくださいよって、さっき言ったように、どこかで夏祭りやるときにみんな同じ日じゃないんで、友達が来て入ってきたときに、違う地域だから駄目だっていうことはできない、今もそれはしませんけど、さらにそれが拡大していく。通学路の問題をここで出すとおかしいんですけど、帰りに友達のうちによって帰りたいから、もしかしたら途中下車を望む子が出るんじゃないか、そこを心配する。そういう部分もあるんで、何が起こるかわかんない。

(委員)

1回は帰るってことだと思うんですよ。そこからは親の管轄だと思う。もう完全に子供だけにやらせるでも。

(委員)

基本的に、今まで小学校、中学校と、学校の子供たちと地域とのつながりを、今までやってきたイベントはそのまま続けたいんですよ。令和8年度以降も。続けるに当たっては、いきなり人数が3倍になるもんで、それをどうしようかというのは今、地域で我々は話し合ってるんです。どんな方法があるだろうかっていうのを、まず知っていただければいいです。

(委員)

それは岩田小でやっていたことで、向笠小ではやってない。

(委員長)

向笠小では、例えば5年生が田植体験をしたっていうと、25人かそこらでちょうど適正規模なんです。それが向陽小になると80人ぐらいになっちゃって、そういうキャパの課題が出てくる。

(委員)

だから、向笠小でやってたこと、岩田小でやってたこと、大藤小でやってたことを、新しい学校になったときにそれ全部やりたいって、それはもちろん無理ですよ。

(委員)

学校でやる分については、先生方が多分考えてくださっている。私たちが言っているのは、地域活動の部分もある。学校と一緒にやっていることもあれば、土日の地域活動で学校外のことだったり、その2つある。学校と一緒にやる部分については、例えば向笠でいったら、ソバを作ったりとか、野菜作ったりがありますよね。それらが、小学校が一つになったときに、その子たちが各地区に行ってやるようになるのか、自分の地区に行ってやるようになるのか、それとも…。

(委員)

ごめんなさい。私から考えると、本当に素人目線だけど、例えば、向笠でやってたソバを、全校でやるのって完全に無理じゃないですか。キャパで無理じゃないですか。それ全

部そうそうなんですよね。それと、この地区の祭りをやりたいとか何とかっていう、それって全く別の話ですね、課題も全然違うことだし、そこは一緒にしたら駄目だと思ってるんですよ。それぞれで考えなきゃいけないなと思っていて、その地区のことは、正直地区のことなんで、学校関係ないんですよ。正直私はそう思ってます。地区の祭りだったり地区のことなので、学校がどうこうっていうのは、私は全然関係ないと思う。何でそれが一緒になるから、地区の祭りとかもそれで一緒にするっていう話になるのか、私はよく分からない。

(委員)

イベントするときに、小学校3年生って今まで声かけていて、みんな来てくれたときに、20人足らずなんですよ。

(委員)

でもそれは、岩田小だったからですよ。それが1つの学校になるんだけれども、地区のことですよ。

(委員)

それを教室ごとに分けられないものだから、地区の子だけ来てねというわけにはいかなくなるわけです。

(委員)

自治会で配布したり、小学校に、この地区の子だけに配布してもらえば。

(委員)

それをしたくないので、今はここで、こういうことありますよって話をしているだけなんです。

(委員)

なぜ、したくないんですか。

(委員)

クラスの中で、地区での分けをしたくない。

(委員)

地区の集まりだから、地区の子を呼べばいい。

(委員)

普通に学校のある日にやったりもするので、日曜日に来てねって言うだけじゃない。地域と学校のつながりというのは、1年365日つながってるので、10月の祭りだけじゃない。

(委員)

学校と地区が一緒になってやるのは、そういうアユのつかみ取りだとか、何か分からない。学校がある日にやってることは、学校と地域の集まりじゃないですか。それと地区でやること、学校関係なく地区でやりたいものっていうのは、別で考えたほうがよくないですかって思ってるんです。

(委員)

協議会で考えるような内容はないですよ。祭りは協議会とは一切関係ない。私のところは、地区でやっていますけど。

(委員)

向笠小と岩田小は違う。

(委員)

岩田小は地域とかの行事も学校のカリキュラムの中に組み込まれちゃってるんだと思う。

(委員)

どういう感じなんですか。私が言っていることが…。

(委員)

少しゴッチャになっているので、なかなか難しいですけど。僕らの場合は、いわゆる生活科とか総合的な学習の時間、ちょっとした行事でいろいろお世話になってるところと、この社会福祉協議会だとか、ふるさとの会っていうところと連携してやっています。

(委員長)

学校は教育活動が1番大事です。それが地域の協力、支援を頂くことの協議というのは、3つが1つになるので、色々やってかなくてはいけない。変わったりなんかするときには、必ずこっちと勝手に変えないようにしてかないと、やろうと思ったんだけど何でなくなったのかとか、そうなるんですよ。

(委員)

僕らがやはり地域にお願いしたいことの 하나가、授業ですね。生活総合的な学習の時間、行事等に関わっていただきたい。それぞれの地域のソバだとかお茶だとか、岩田地区だったら農業だとか、そういったところをうまく活用して授業に組み入れていきたいというのが大きな一つです。それがどこの団体でどういう人たちとやるかっていうのは、またご相談していくということになります。もう一つがやはり安全面ですね。登下校のところで、見守り隊の方々とかボランティアの方々に、いかに難しい登下校で子供たちを守っていただきたいかっていうことを、これからお願いしていかなきゃいけないというふうには考えています。それぞれの団体をどういうふうに活用していくかっていうのは、本当に学校と地域のいろんな組織の方々と整備しなければいけないなというふうには思っています。何がどこにあるかというのは、僕らも向笠と大藤の全ての組織を分かっていないので、それを1回ちょっと広げてみて、どこの授業で、どの学年でというふうな、ちょっと整理しているところではあります。あと土日の文化祭だとかお祭りだっていうのは、私たちは、子供たちが楽しみにしているので、行っておいでっていうところはあるんですけど、企画していただいているのは地域の皆さんなので、それに僕らは乗かって、子供が楽しんでおいでっていうのは言える立場ですので、それでは、一緒になってどういうふう運営していくかっていうのは、また別の問題ですよっていうことだと思っています。

(委員長)

もう課題山積で、PTAの組織もなかなか、何か全国的には問題を抱えている。身のあ

る組織にしていけないと、中にはもうPTAの会員になりたくないような人が最近出てきています。いろいろなそういう学校取り巻く各種団体、グループ、地域のいろいろなものが、新しい学校ができる中で、もういろいろ出ちゃっています。少し整理整頓して少しでもいい方向に持っていくために、今まで以上にPTAさんに協力してもらわないとできなくなる。

(委員)

PTAの中でも、協力してくれる人とさっきの話のように、コロナのときに学校行事やめちゃって、コロナが明けて復活させようと思って声をかけても、やらなくても大丈夫じゃないっていう人がいっぱいいるんですね。中学校ではこういう話はないですけど。向陽中学校PTAの中にお父さんたちの集まり、ボランティア団体のおやじクラブというのがあって、PTA活動の中で大変な資源回収とかなんかの手伝いに、お父さんたちも参加しましょうねっていう組織が昔はあって、昔は本当に中学校で豚汁とか作って振舞ったりいろいろなイベントをやってたんですけど、コロナ明け、人がほとんど集まなくて、意識がもうコロナに慣れちゃってる。そこは、皆さんが言っているように、やる気とか気持ちを昔に戻してもらってやっていかないと、なかなか難しい。地域の1人1人が動いていかないとこの問題というのは解決しにくいのかなと思います。

(委員長)

ちょっと時間になってしまいましたので、まとまるなんてことはとてもできるものではない。そのぐらいいろいろなところで課題がある。多分自分の気付かない所でいろんなことが行われていますので、次回がいつになるか分かりませんが、次に持ち越しをしたいなと思います。今日はこのぐらいで、締めにさせていただきたいと思います。事務局のほうに、お渡ししますので、私のほうはこれで役を降ろさせていただきます。

(事務局)

ありがとうございました。いろいろなご意見など、私自身も学校をつくっていく教員の立場での立ち位置というのを、今考えながら聞いていました。次回ですけれども、もう少しこの話を進めていければと思っています。先ほどありましたそれぞれ3地区での今まで進めてきたことの違いがあるだろうと思っていますし、実際に市内に施設一体型の小中一貫校として、ながふじ学府が地域とのつながりをどういうふうにやってるかっていうところ、これがそのままそっくり向陽学府にやれるということではないと思っています。いろいろその地域同士のやり方がありますので、「創出」と書きましたけどやっぱ創り出していくしかないと思っていますので、創り出すのは、今年につくって令和8年を迎えるんじゃなくて、今年考えていくことが、恐らく令和8年の創出につながっていくと思います。そこを3つの小学校が1つになっていくっていう難しさと、あとそこに広がるちょっと可能性みたいなものを、地域で感じていきながら、少し話が進めていければと思っています。よろしくお願いいたします。

3 連絡事項（学校から）

前回のときに、向陽小学校の体操服についてこの場でお伝えをしました。1学期の後半

から校長で案を出しながら、2学期になって保護者に伝えて、ご意見を伺いました。特に大きな問題なく、賛成というふうに受け取っています。そのあと、教頭、それから教務主任、各校全員そろいまして、その中で意見を頂いたんですけど、特にそこでも、この線に沿って大きな問題ないので、向陽小学校の体操服は、今使っている向陽中学校の体操服と同じもの、生地とかデザインとか、そうなりますということで、これから業者といろんな話を詰めながら、スケジュールを再確認しながらしていきますが、一応その方向で決まりましたということをお伝えしたいと思います。ただ、令和8年度から着ますよということで、在庫の関係もありますので、ライニングは無しということで考えていますが、8年度から着用。ただ、移行期間はもちろん設けますけども、3年ぐらいが目安じゃないかって言っていますが、体格と身長伸びとかありますので、そこら辺は大目に見ながら対応していきたいと思います。

4 副委員長から

今日はありがとうございました。学校と地域のつながりのお話、いろんな意見が出て勉強になりました。自分はこの向陽中学校は今年からなんですけど、他の学校と比べても、コロナの影響もあるとは言いながらも、この向陽学府、向陽中学校、地域の方の協力というのは、本当にすごい協力的で、先日コスモス学習ということで、1年生は調べ学習から、2年生は職場体験、3年生は福祉体験ということで、地域の方々の力を借りて、学校から出て、そういう体験学習をしたんですけど、職場体験で28の事業所の方が協力してくれまして、ふだん経験できない体験をしました。1学年70人ぐらいですが、28の事業所が協力してくれるってなかなかないことで、そういう意味ですごく協力的な、うまく連携がとれてる地域だなと思います。その一つには、コミュニティースクールディレクター(CSD)という立場の人がいて、調整をしてくれています。その他に、逆にこの地域のほうのボランティアということで、地域のほうに子供たちが、いろんなボランティアに参加するんですけど、この辺もやっぱ小学校のときから、ある意味教育されていて、地域と子供たちが近い距離にあるのが、この学府のいいところなのかなと常に思っています。ですので、こういう会話ができて、もっとこう俯瞰できるといいのかなと思います。またよろしくお願ひします。

もう1点、中学校の制服の関係です。令和8年度開校に合わせて、新中学1年生ですけれども、新制服にしていく予定でいます。先日、保護者のほうにはコドモンで通知のほうをさせてもらいました。磐田市で統一の制服を作っていくということで、いろいろ案を練っているところなんですけど、それに一緒に乗るように考えています。実は昨日、中心になって制服を決めていく業者がカンコー学生服さんに決まりました。そこが中心になるんですけども、そこと事務局でやりとりしながら、今後、保護者の方にアンケートをとりながらデザインを決めたりとかやっていきますので、よろしくお願ひします。